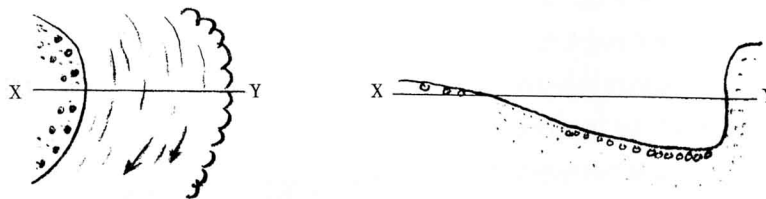


雨つぶ君は地面につくと、まず、大地をけずる（浸食）仕事を始めました。そして、けずり取ったもの（砕せつ物）を雨つぶ君達は、集めて下流へ運び始めました（運搬）ただ運ぶだけでなく、運ばれる石くづ達は、山やがけをけずり、こわれ、石くずどうしもぶつかり合い、こわれ、大きな石くずもだんだん小さく、ついに砂になりました。海に近づくとつれ川の流れは、だんだんおそくなり、海に入ると、やがて止まります。流れが遅くなるにつれ、つぶの大きなものから川底に沈めていきます（たい積）。その仕事のうちでも上流では浸食、下流では、たい積の仕事を多くしていることがわかりました。

3. 川の曲がりかどのようす

川が大きく曲がる付近を気をつけて観察しましょう。

川原の近くと、対岸の近くの①・②の流れの速さを比較しましょう。どちらが速いと思いますか。そうです②です。ですから、川の曲がりかどの外側の土手などが、よくけずられています。それは、水の流れの速い所ほど浸食力が大きくなるので、



川の曲がるどころ



福島市松川下流